

震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders - Relieve, rebuild and re-start Japan

経過報告レポート (2011.10.12-11.11)

1 右腕派遣へのニーズを掘り起こし、岩手への支援も推進

震災復興リーダー支援プロジェクトでは、「若者たちが集い、起業家精神溢れる東北」の実現に向けて、復旧や復興に取り組むリーダーのもとに、その右腕となる有能な若手人材を2014年度末までに50プロジェクトに200名派遣します。

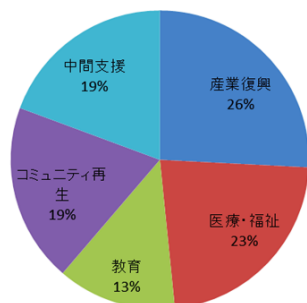
①緊急・短期:被災者支援
(震災弱者支援のためのコーディネート機能の確立)

②短・中・長期:被災地の復興に向けた事業・プロジェクトに取り組むリーダーの支援
(リーダーを支える「右腕」となる若手人材を派遣)

③中・長期:新たな震災復興リーダーの育成・輩出
(産業再生・地域再生を担う新たな起業家の支援)

11月11日現在、右腕へのエントリー者数は109名、そのうち53名を右腕として現地へ派遣しました(緊急支援フェーズ15名、リーダー支援フェーズ38名)。現在の派遣プロジェクト数は30。

派遣先プロジェクト 分野比率



これまで、宮城県を中心としたプロジェクトへ支援を進めてきましたが、地域のニーズ発掘をすすめ、岩手県のプロジェクトも少しずつ増えてきています。

産業復興、医療・福祉、教育、コミュニティ支援、中間支援と、多岐にわたるテーマを持つプロジェクトへ、人材を派遣しています。また、2週間~1か月の期間、プロジェクトの推進にコミットする「短期プロジェクトスタッフ」は20名となりました。

2 右腕マッチングフェアの参加者エントリーを受け、新たな右腕をプロジェクトへ派遣

10月に開催した、第2回目の右腕マッチングフェアには130名以上が参加。フェア参加者からの右腕へのエントリーや「みちのく仕事」からの応募も順調に推移し、新たに右腕募集を開始したプロジェクトを含め、右腕の派遣が次々と決まっています。

■新たに右腕の参画が決定したプロジェクトと右腕紹介 (※全員ではなく、一部ご紹介となります)

なつかしい未来商店街プロジェクト	
受入団体	なつかしい未来創造株式会社
活動地域	岩手県陸前高田市
右腕紹介	種坂奈保子氏。 芸術大学を卒業後、店舗デザイナーとして勤務。3月末から石巻で地域に密着した長期のボランティア活動に従事。前職の店舗デザイナーの経験を活かし、ただ物売る空間ではなく、仮設住宅でバラバラになった人々が、集い、交流出来る活気あふれる癒しの空間になるよう、商店主さん達と協力しながら取り組んでいく。

みやぎ連携復興センター	
受入団体	みやぎ連携復興センター
活動地域	宮城県全域の被災各市町
右腕紹介	藤田研氏。 2006年から3年間、仙台市・福島市に赴任し、農業融資の仕事に従事。お世話になった方々の家族の命が失われ、「他人事で済ませてはならない」と感じ、復興のために自分ができることを模索し参画を決意。11月よりみやぎ連携復興センターで2大事業の立ち上げに従事。

安心見守り協働事業・コミュニティ・ワーク創出事業	
受入団体	一般社団法人パーソナルサポートセンター
活動地域	宮城県仙台市
右腕紹介	岡本裕野氏。 今立ち上がらなければ傍観者で終わってしまうと、大手証券会社を退職し参画を決意。仮設住宅の入居者向けのコミュニティ形成のための居場所づくり、高齢者・障がい者・母子家庭の母などの社会的スキルが不足している層に対する就労トレーニングの場の提供、就労支援を行うコミュニティ・ワーク創出事業に11月より従事。

気仙沼・情報発信力アッププロジェクト	
受入団体	株式会社齊吉商店
活動地域	宮城県気仙沼市
右腕紹介	小林峻氏。 大学1年次よりNPO法人ETICにてインターン。ベンチャー企業の内定を辞退して大学を休学し、参画を決意。現地における商品販売力のアップやその基盤創りを最終目標として、現状調査や戦略立案、プロジェクト組成、事務局業務に取り組んでいく。東北に長期的に残ることも視野にいれながら、11月より活動を開始。

つなプロ・気仙沼大島	
受入先	エリアマネージャー・川崎 克寛氏
活動地域	宮城県気仙沼市
右腕紹介	永田真澄氏。 早稲田大学5年。テレビ局に記者職として内定。1~2度のがれき撤去ボランティアのみでなく、長期間復興にフルコミットしたいと思い、参画を決意。11月より気仙沼大島で、安心して暮らせる仕組みづくり構築のサポートに取り組んでいく。

3 派遣先プロジェクトの主なニュース

■地域創造基金みやぎ

・財団としての初めての案件「ジャパン・ソサエティ 東日本大震災復興基金 ローズファンド」の第一期募集を終了しました。
・震災復興リーダー支援プロジェクトから派遣していた右腕人材の、正規職員雇用を決定しました。

■東の食の会

・10月29日・30日に「東日本大震災復興祭 2011～子供たちの未来のために～」の一環として「Food Relation Network × 東の食の会」を国立競技場・代々木オリンピックプラザで開催しました。

■東北 Roku プロジェクト


・仙台銀行からの5億4000万円の融資により、2012年4月に農工商一体型施設の開業を予定。被災者や障害者を中心に従業員100人の雇用を予定し、開業準備のために既に25人を採用しました。


■みやぎ連携復興センター


・10月31日より、宮城県全域での緊急仮設住宅調査を開始。調査のために25人を緊急雇用しました。

4 リーダー・右腕へのインタビュー —「みちのく仕事」記事インデックス—

震災復興リーダー支援プロジェクトでは、株式会社シゴトヒトと協力して「みちのく仕事」というWEBサイトを運営し、現地のリーダーや右腕の情報をインタビュー記事にまとめてお伝えしています。今回は、10月12日から11月11日の間に更新した3本の記事をご紹介します。全文は「みちのく仕事」サイトよりご覧ください。>><http://michinokushigoto.jp/>

「気づいたらもう動いてた」 教育支援NPOアスイクが誕生した日	
取材先	仮設住宅で生活する子どもたちの教育支援プロジェクト代表・大橋雄介氏
記事紹介	震災直後。まだ学校の再開すら危ぶまれている時期に、宮城県仙台市で立ち上がった、子どもの教育支援NPO団体「アスイク」。「教育に関わることになったのは偶然」創設者の大橋雄介さんはそう語る。彼がなぜ教育に携わることになったのか。その経緯や現地での活動について伺った。 

雄勝からはじめる、「食に込めるエネルギー」	
取材先	カキ・ホタテ養殖復興プロジェクト代表・立花貴氏
記事紹介	<p>震災の翌日から仙台に入り、食のプロジェクトで仙台を励まし続けている立花貴さん。長年食品業界に携わってきた立花さんが、仙台の生産者たちと交流する中で気がついたこと。目指すべき食品の未来とは。「グッとくる」を軸に、お話していただきました。</p> 

気仙沼大島で3ヶ月活動して、見えてきたもの	
取材先	つなプロ気仙沼大島長期スタッフ・梶原大試氏
記事紹介	<p>避難所での課題や困りごとを発見して専門性を持つNPOなどへつなげることをミッションとする合同プロジェクト・つなプロ。短期でつなプロボランティアに参加したあとに、長期で関わることを決め、気仙沼大島で3ヶ月間の活動を行った梶原大試さんに、現地での活動や学びなどについて伺いました。</p> 

5 トピックス (2011.10.12-11.11)

■FITチャリティ・ランでブース展示

11月6日、FITチャリティ・ラン実行委員会が主催するFIT(Financial Industry in Tokyo)チャリティ・ランに参加してきました。金融サービスおよび金融関連の企業111社から社員やその家族、友人ら総勢7,447人が参加し、約6782万円の資金が集まったFITチャリティ・ラン。NPO法人ETICはこのチャリティ・ランの支援先10団体のうちの1つに選ばれ、震災復興リーダー支援プロジェクトの取り組みについてブースを展示しました。



■エリカファンドから2プロジェクトへ寄付が決定

3年前まで日本で暮らしていたアメリカ・シリコンバレーに住む10歳の女の子・エリカさん。彼女が近隣の人たちやクラスメートに呼びかけ、自分で作ったレモネードなどを売って50万円を集めました。「東北の子供たちを元気づけることに使ってほしい」という思いをもとに、震災復興リーダー支援プロジェクト事務局で寄付先の選考を行い、NPO法人子供家庭リソースセンターが行う「自然災害被災児の心のケアプログラム、シルバーライニング」と、アートチームArt Explode!!が行う「あんな時あったね、こどもたちとつくる記憶」写真インスタレーション展に寄付が決定しました。

■右腕個別説明会の開催

10月12日から11月11日の間に、右腕検討者に向けての個別相談会を4回ほど開催。マッチングフェアに参加した方の相談などを聞きながら、プロジェクトへのマッチングを進めています。

6 震災復興リーダー支援プロジェクト ご寄付、ご支援のお願い

本プロジェクトについては、スタート以来、国内外の個人・団体・企業の皆様より大きな関心を頂戴し、現在のご寄付の総額116,477,418円のほか、民間企業や国内外の財団から引き続き支援に関する照会をいただいております。

しかしながら、右腕人材の派遣をはじめとして、現地で復興の取り組む人々からの支援のニーズは予想以上に高く、右腕派遣の目標を「50件のプロジェクトに200名」と当初の倍に設定しなされたをはじめ、各プロジェクトへのハンズオン支援の充実、新たなプロジェクトのインキュベーションやスタートアップ支援など、震災復興リーダー支援プロジェクトの全体像の再構築に取り組んでいるところです。

目標の変更に伴い、総予算額も3年間で6億円以上の規模となる予定で、改めてファンドレイジング戦略の強化を実施してまいります。

皆様におかれましては、「震災復興リーダー支援基金」のPRへのお力添えをはじめとして、事業連携や各プロジェクトへの個別のご協力など賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

信頼資本財団 「震災復興リーダー基金」

» <http://www.shinrai.or.jp/fukkou-shien/etic2/>

連絡先・お問い合わせ先

◆NPO法人ETIC内

震災復興リーダー支援プロジェクト事務局(担当:山内・辰巳)

東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階

mail: fukkou@etic.or.jp

Web: <http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>